

令和 6(2024)年度 学校関係者評価報告書

作成日：令和 7（2025）年 3 月 31 日

学校法人 桑沢学園

専門 桑沢デザイン研究所
学校

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-4-17

専門学校桑沢デザイン研究所 学校関係者評価報告書について

専門学校桑沢デザイン研究所学校関係者評価は、デザイン関連業界等関係者、卒業生、教育に関し知見を有する者、学識経験者・地域支援者を委員として選任し、本校が実施した自己評価結果に関する評価をおこなって頂いている。現状における課題について助言を得る貴重な機会としても位置づけ、必要な改善、学校運営や教育実践力等の向上に役立てることとする。根底に本校が従来から伝統的に取り組んできたものについてその価値を見極めて頂き、今後も継続できるよう客観的に評価して頂いた。

1. 実施日時

第1回 学校関係者評価委員会 令和6年7月24日

第2回 学校関係者評価委員会 令和7年 3 月 12 日

2. 実施場所

専門学校桑沢デザイン研究所 事務室

3. 実施組織

学校関係者評価委員会

評価委員：

磯村 歩	株式会社フクフクプラス代表取締役/本校非常勤教員
川上 典李子	21_21 DESIGN SIGHT アソシエイトディレクター/本校非常勤教員
後藤 和樹	株式会社小林工芸社/本校卒業生
山廣 茂夫	元専修学校校長・神奈川県立高等学校副校長
陸 鐘旻	公益財団法人 日本高等教育評価機構 評価事業部長 兼 評価研究部長

(50音別 敬称略)

4. 学校自己評価報告書について

(a)評価基準:文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

(b)評価項目:次の10項目について実施

- 項目1 教育理念・目的・人材像
- 項目2 学校運営
- 項目3 教育活動
- 項目4 学修成果
- 項目5 学生支援
- 項目6 教育環境
- 項目7 学生の募集と受け入れ
- 項目8 財務
- 項目9 法令等の遵守
- 項目10 社会貢献・地域貢献

(c)評価項目に対する評価

4段階評価で点数評価した。 4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

5. 学校関係者評価報告書の作成について

上記の学校自己評価報告書を基に、評価委員毎に各項目について確認の上意見をご提出頂いた。それぞれの点検項目に関する自己評価と、評価委員のコメントを以下の様にまとめた。

項目1 教育理念・目的・育成人材像

教育理念・目的・人材育成像	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1			
1. 理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2	1
2. 育成人材像は専門分野に関する業界等の人材ニーズに適合しているか	4	③	2	1
3. 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4	③	2	1
4. 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1

【学校関係者評価委員会コメント】

「3. 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか」(重点項目)について

- 学生がなぜ美術大学ではなく桑沢デザイン研究所を選んできているのかを考え、本学の特色を再確認したい。桑沢デザイン研究所では、昼間部の1年目にビジュアル・プロダクト・スペース・ファッションの四つのデザイン分野を全て履修し、その中から本人が自らの適性を判断し専攻を決めるカリキュラムとしている。これは在校生にも大変好評であるので、さらに推進したい。
- 専門学校でしかできない教育の特色がある。本学の教授陣は、第一線で活躍中のクリエイターたちが教鞭をとっている。これは、なかなか大学では難しい。これも専門学校の特色を生かした教育活動である。
- 分野の連携には、①授業の連携、②教員の考え方の連携、の2つがある。社会が劇的に変化している中で、領域を横断できるクリエイターの存在が重要視されている。これからのデザイナーとしての在り方を見据えた教員間の交流があるとよいのではないか。
- 年度初めや終わりに、学校が何を考えているか、教員が授業の中でどのような問題を感じたか、などについて、専任・非常勤教員が情報共有できるようなコミュニケーションの場を設けると有効ではないか。
- デザイン理論のように、分野横断的で総合的な学習期間を1年次のカリキュラムに含めている点が高い評価に値する。
- 「専攻間での連携不足」について、自己評価報告書では課題として設定しているが、そこまでの弱み・課題とは思われない。また、学生の意見を聴く機会を設け学校運営に反映させたほうがよい。

項目2 学校運営

学校運営	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1			
1. 理念等に沿った運営方針を定めているか	④	3	2	1
2. 理念等を達成するための事業計画を定めているか	④	3	2	1
3. 設置法人の組織運営を適切に行っているか	④	3	2	1
4. 学校運営のための組織を整備しているか	④	3	2	1

5. 人事・給与に関する制度を整備しているか	4	③	2	1
6. 意思決定システムを整備しているか	④	3	2	1
7. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

【学校関係者評価委員会コメント】

「7. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか」(重点項目)について

- タブレットや PC を利用した学生の出欠管理システムを導入したとあるが、学生自身が成績管理・成長度がわかる学生支援に係るシステム(学習成果、どこまで単位とれているかなど)があるとよい。

項目3 教育活動

教育活動	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1			
1. 理想に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	④	3	2	1
2. 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	④	3	2	1
3. 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	③	2	1
4. 教育課程について外部の意見を反映しているか	④	3	2	1
5. キャリア教育を実施しているか	④	3	2	1
6. 授業評価を実施しているか	4	③	2	1
7. 成績評価・修了認定基準を明確化し適切に運用しているか	4	③	2	1
8. 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	④	3	2	1
9. 目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置づけているか	4	③	2	1
10. 資格・免許の指導体制はあるか	4	③	2	1
11. 資格・要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
12. 教育資質向上への取り組みを行っているか	4	③	2	1
13. 教員の組織体制を整備しているか	④	3	2	1

【学校関係者評価委員会コメント】

「9.目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置づけているか」「10.資格・免許の指導体制はあるか」について

- デザイン系の専門学校でもとりわけ桑沢デザイン研究所では、資格・免許の取得よりもクリエイターとして創造性のある人材育成を目標とした教育を行っている。評価項目自体が、学校の理念に即していない。教育理念をふまえた自己評価をしたうえで、評価項目を見直すべきである。

項目4 学修成果

学修成果	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1			
1. 就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
2. 資格・免許取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
3. 卒業生の社会的な評価を把握しているか	④	3	2	1

【学校関係者評価委員会コメント】

「1.就職率の向上が図られているか」について

- 就職率、退学率の上下や目標数値が下がっているのか自己評価報告書の記述からは不明であり、数値的な裏付けをふまえた記述に改めることが望ましい。また、目標数値がどこであったかも、適切かどうかの判断基準になる。HPで外部公開しているのであれば、リンク URL を示すのでもよい。
- 卒業後の就職状況について把握しているのであれば、卒業後のフォローについても優れた取り組みとして記述をしておくべきである。

「2.資格・免許取得率の向上が図られているか」について

- 資格・免許取得率の向上について、評価項目自体が桑沢デザイン研究所の教育理念に即していないのではないかな。

項目5 学生支援

学生支援	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1			
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
2. 退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
3. 学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
4. 留学生に対する相談体制を整備しているか	4	③	2	1
5. 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
6. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
7. 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	4	③	2	1
8. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
9. 保護者と連携体制を構築しているか	4	③	2	1
10. 卒業生への支援体制を整備しているか	④	3	2	1
11. 産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	4	3	②	1
12. 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	④	3	2	1

【学校関係者評価委員会コメント】

「4.留学生に対する相談体制を整備しているか」について

- 6言語対応の冊子の配布は他校にもあまり例のない取り組みであり、優れた取り組みとして評価できる。

「11.産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか」について

- 取り組みをしていないとしても、学校の実情にあっていないことが理由であり、自己評価を下げる必要はない。

項目6 教育環境

教育環境	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1			
1. 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	④	3	2	1
2. 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	③	2	1
3. 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	④	3	2	1
4. 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	④	3	2	1

【学校関係者評価委員会コメント】

「1. 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか」について

- 熟慮された空間デザインであると同様に教育環境の可能性を探る姿勢が伝わってくる新教育施設が完成したこと、またその環境が活用されている状況は注目に値する。学生たちの成果や教員の研究内容等を紹介する展覧会等を通して、本校ならではのヴィジョンそのものが広く外部に示される場となっていることも大いに評価したい。
- 卒業生がデザインを手がけた「桑沢学園・新教育施設」が国際的に権威のあるデザインアワード『iF DESIGN AWARD 2025』の Interior Architecture / Public Interiors 部門で受賞したことも、新教育施設の環境に関する高い評価を示すところである。

「2. 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか」

- 長年実施しているバウハウスツアーは、希望者が対象である。現地でしか得られない情報を参加者が持ち帰り、課題制作などに活かすなど他の学生への影響など複合的な効果を生み出している側面がある。ぜひ続けてもらいたい。

項目7 学生の募集と受け入れ

学生募集受け入れ	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1			
1. 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	④	3	2	1
2. 学生募集を適切、かつ、効果的に行っているか	4	③	2	1
3. 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	④	3	2	1
4. 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	③	2	1
5. 経費内容に対応し学納金を算定しているか	4	③	2	1
6. 入学辞退者に対し授業料等について適切な取り扱いを行っているか	④	3	2	1

【学校関係者評価委員会コメント】

「1.高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか」について

- 説明会、相談会の開催実績について、実施にあたる職員の数や実施の回数などを明記するほうがより好ましい。
- オープンキャンパスが学生の積極的な参加の下で実施されており、大きな盛り上がりを見せているため、追記すべきである。高校の教員の目線からすると、在校生の言うことは信用性が高く、広報活動としての価値が高い。

項目8 財務

財務	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1			
1. 学校及び法人運営の中期的な財務基盤は安定しているか	4	③	2	1
2. 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	④	3	2	1
3. 教育目標との整合性を図り単年度予算、中期計画を策定しているか	④	3	2	1
4. 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	④	3	2	1
5. 私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施しているか	④	3	2	1
6. 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し適切に運用しているか	④	3	2	1

【学校関係者評価委員会コメント】

「3. 教育目標との整合性を図り単年度予算、中期計画を策定しているか」について

- 事業計画を策定している学校は数多くあるが、予算計画を年度単位で策定している法人は多くはない。予算計画を策定している点については、高く評価できる。

項目9 法令等の遵守

法令等の遵守	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1			
1. 法令や専修学校設置基準を遵守し適正な学校運営を行っているか	④	3	2	1
2. 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	④	3	2	1
3. 自己評価に実施体制を整備し評価を行っているか	④	3	2	1
4. 自己評価結果を公表しているか	④	3	2	1
5. 学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	④	3	2	1
6. 学校関係者評価結果を公表しているか	④	3	2	1
7. 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	③	2	1

【学校関係者評価委員会コメント】

- 特になし

項目10 社会貢献・地域貢献

社会貢献・地域貢献	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1			
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
2. 国際交流に取り組んでいるか	④	3	2	1
3. 学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援を行っているか	4	③	2	1

【学校関係者評価委員会コメント】

- 評価点の評価基準が不明確であり、参加人数、分野数、プロジェクト数の対前年比など、定量的な評価基準を据えたほうよい。また、学校として、どのように社会貢献・地域貢献に取り組んでいくかのステートメントを出したうえで数字目標を掲げられるとなおよい。
- 「学生のボランティア活動の奨励や活動支援について・・・積極的な支援が困難な状況にある。」とあるが、「シブヤフォント」は長年の支援実績があり、一定程度の支援を実施していると評価してよい。
- 卒業生、在校生の活躍ぶりを耳にする機会が多く、学校がまだ把握していない事例が存在する可能性があり、教員にアンケートをとるなどして調査をすることが望ましい。

6. 学校関係者評価委員の評価結果について

上記報告内容は、学校関係者評価委員として、
妥当な評価であることを確認し、認めます。

令和7年3月31日

専門学校桑沢デザイン研究所学校関係者評価委員会

【学校関係者評価委員会】

委員長(教育に関し知見を有する者)

山廣 茂夫〔元専修学校校長/神奈川県立高等学校副校長〕

委員(関連業界等関係者)

磯村 歩〔株式会社フクフクプラス代表取締役/本校非常勤教員〕

委員(関連業界等関係者)

川上 典李子〔21_21 DESIGN SIGHT アソシエイトディレクター/本校非常勤教員〕

委員(卒業生)

後藤 和樹〔株式会社小林工芸社/本校卒業生〕

委員(教育に関し知見を有する者)

陸 鐘旻〔公益財団法人 日本高等教育評価機構 評価事業部長 兼 評価研究部長〕